

# 秋年闘争を不退転の決意で闘おう

## 第2回 支部代表報告



83. 11. 26

No. 1502

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二二七二〇七

**レীগアン阻止闘争勝利の地平を切り開き、昇給「59.2」へ 確信高くつき進め**

動労千葉は十一月二四日、第二回支部代表者会議を開催し、当面する昇給協定改悪阻止一仲  
 裁裁定早期完全実施一年末手当獲得、59・2ダイ改阻止、内達一動乗勤改悪阻止・総選挙闘争  
 勝利へ向けた闘いを、戦闘的国鉄労働運動の死活をかけた正念場の闘いとして、不退転の決意  
 で闘うことを確認しました。

### レীগアン来日阻止闘争勝利の意義

第八回定期大会以降、四〇日余りの闘いの実践  
 の中で、われわれは動労千葉の路線の正しさと正  
 しい路線に基づく職場・生産点の闘いの活性化と  
 質的向上を確認することができました。

それは、11・9レীগアン来日阻止闘争における  
 動労千葉の圧倒的大衆的高揚と、当局の昇給協定  
 改悪提案に率先協力一屈服し、鉄労とともに片仕  
 切りなどという許すべからざる裏切りに走り、権  
 力・当局の尖兵としてより純化した動労「本部」  
 革マルの労働組合に値しない墮落した姿との対比  
 の中に、何よりも鮮明に示されています。

11・9レীগアン来日阻止闘争の勝利を総括する  
 第一の視点は、レীগアン来日が「大統領選挙」  
 「年内解散一総選挙」へ向けた自己保身のために  
 仕組まれた政治茶番劇であり、社共一総評の既成  
 指導部が闘いを放棄する状況の中の動労千葉の  
 決起は、階級闘争一労働運動のあるべき方向性を  
 指し示すものとして画期的内容と質をもつことを  
 確信し、全体のものとする事です。

第二に、反動・中曽根内閣の「戦後政治の総決  
 算」を呼号する軍事大国化へ向けた諸反動攻撃に  
 甚大な打撃を与えたことを確信できます。

第三に、動労千葉二七〇名決起は、11・9の闘  
 いを大きくけん引し、勝利の原動力となったとい  
 うにとどまらず、三里塚を闘う多くの労働者・人  
 民はもちろん、「57・11」59・2「内達一動乗  
 勤」「検修合理化」「職場規律一第二マル生」等  
 の攻撃下で苦闘する戦闘的国鉄労働者に限りない  
 激励を与え、国鉄攻撃粉碎の突破口を切りひらき  
 ました。

第四に、総選挙情勢下でも、路線と指導のあり方  
 によっては労働者は職場・生産点の深部から決起  
 するのであり、そういう決起以外は真の力になり  
 得ないことを動労千葉の決起は指し示しました。

第五に、裏切り者一当局の尖兵たる動労「本部」  
 革マルのセクト的立場からする「闘うべきではな  
 い」という路線に、決定的ダメージを与えました。

以上の成果と教訓を全体化し、「59・2ダイ改  
 阻止」をはじめとする秋年未闘争の具体的闘い  
 の中へ血肉化し、実践していこうではありません  
 か。

### 昇給交渉の経過と問題点

動労千葉は、四月定期昇給の実施を求め「申  
 第11号」をもって当局に申し入れ、早期解決を  
 ざし交渉を要求してきました。

しかし当局は、昇給協定改訂時期を過ぎた六月  
 一五日に至り、地方協議を否定し、3項8号適用  
 基準を強化し、管理者の一方的裁量権を拡大し、  
 回復昇給制度を改悪することで差別支配一職場支  
 配強化をはかる、昇給協定改悪提案を行ってきま  
 した。

動労千葉は六月一五日以降、「地方協議」「3  
 項8号」「回復昇給」の三点にしぼって団交を展  
 開してきましたが、国労、全動労が八月一五日に  
 公労委にあっせん申請を行ったことで、一時交渉  
 を中断しました。

九月一九日にあっせん申請が差し戻されるや、  
 十一月四日、当局は「年内追給支払いは六日妥結  
 が前提」との一方的通告を行うとともに「年内追  
 給未実施は国労、動労千葉の責任」なる掲示をだ  
 す不当労働行為を行いました。

十一月六日、動労千葉が断続的交渉を行うさ中  
 動労「本部」、鉄労、全施労が屈服し、片仕切り  
 を強行しました。

以上の経過からも明らかのように、昇給が実施  
 できない原因は、当局の硬直した姿勢と動労「本  
 部」がこれを承認し鉄労と片仕切りしたことにあ  
 ります。

われわれは当局、動労「本部」革マルの「昇給  
 協定片仕切り」という困難な情勢のなかで、あく  
 までも労働組合の原則にふまえて、組合要求を押  
 しこみ、動労「本部」革マル一土屋一派の組織破  
 壊攻撃を粉碎する取り組みの強化をはかります。

（「当面する取り組み」については、次号に  
 報告します）